

# 協同の叢見

きょうどうのはっけん



第239号 2012.6

## 特集

## はたらくということ

— 私たちにとって「はたらく」・「いきる」ということ

- ◎研究会報告 共に働き、共に生きる 長野 敏宏
  - ◎実践報告1 清掃現場から地域へ 松永 啓子
  - ◎実践報告2 若者支援の実践から希望の持てる社会づくりへ 小椋 真一
  - ◎協同労働座談会Ⅱ — 女性が働きやすい社会と職場を考える  
宮崎 弘美×城戸 愛子×青木 未知×松本 典子
- コメント：座談会を終えて 松本 典子

## ●協同の広場

保障だけでなく、関係を創り変える社会へ 堀 利和

資料：社会的事業所促進法案大綱

公共職業訓練の課題と公的訓練・就労事業制度の可能性 今野 浩一郎

## ●連載 2012全国協同集会 取組みレポート 酒見 友樹

協同総合研究所

JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

## ■ 巻頭言

- 働きがい・生きがい・やりがいがあり社会や地域に貢献できる仕事～仲間と共に楽しく働く  
 …………… 宮野 洋子(ワーカーズ・コレクティブ ネットワークジャパン代表、  
 (企)ワーカーズ・コレクティブ 紙ふうせん 理事) …………… 2

## ■ 特集：はたらくということー私たちにとって「はたらく」・「いきる」ということ

## 研究会報告

- 共に働き、共に生きる…………… 長野 敏宏(NPO法人ハート in ハートなんぐん市場理事、御荘病院院長) 6

## 実践報告

- ◎清掃現場から地域へ  
 …………… 松永 啓子(ワーカーズコープセンター事業団釧路第2地域福祉事業所所長) 34
- ◎若者支援の実践から希望の持てる社会づくりへー人を、社会を変える仕事おこし  
 …………… 小椋 真一(ワーカーズコープセンター事業団 北陸信越事業本部) 40

## 協同労働座談会Ⅱー女性が働きやすい社会と職場を考える…………… 44

- 座談会メンバー：宮崎 弘美(ワーカーズコープ・センター事業団高岡地域福祉事業所(まび)所長、会員)  
 城戸 愛子(ワーカーズコープ・センター事業団本部総務部副部長、会員)  
 青木 未知(ワーカーズコープ・東北復興本部登米事業所所長(座談会当時)、会員)

コーディネーター：松本 典子(駒澤大学経済学部准教授、会員)

- ◎コメント：座談会を終えて…………… 松本 典子(駒澤大学経済学部准教授、協同総研会員) 65

## ■ 協同の広場

- 保障だけでなく、関係を創り変える社会へ  
 …………… 堀 利和(共同連代表) 68
- 【資料】社会的事業所促進法案大綱…………… 74

## ■ 公共職業訓練の課題と公的訓練・就労事業制度の可能性

- …………… 今野 浩一郎(学習院大学経済学部教授) 75

## ■ 連載 2012全国協同集會取組みレポート

- …………… 酒見 友樹(センター事業団北関東事業本部、会員) 88

## ■ 労協連だより…………… 古村 伸宏 93

## ■ 研究所だより・活動日誌…………… 管 剛文 94

## 巻頭言

# 働きがい・生きがい・やりがいがあり 社会や地域に貢献できる仕事 ～仲間と共に楽しく働く～

宮野 洋子(ワーカーズ・コレクティブ ネットワークジャパン代表、  
(企)ワーカーズ・コレクティブ 紙ふうせん 理事)

日本で最初のワーカーズ・コレクティブは、1982年に横浜で生活クラブ生協の女性組合員が設立し、同生協の業務受託が最初の仕事でした。現在WNJに加盟している事業所は390団体、総事業高は140億円、メンバー数は約1万人となり年々増え続けています。職種別の団体数でいうと、家事援助・介護、保育・託児、生協業務受託、弁当・レストラン(カフェ)惣菜、食事サービス、編集・企画、リサイクル・せっけん製造、移動サービスなどです。環境、食へのこだわり、地域福祉の充実などに配慮し、また「たまり場」としても事業をしながら展開しています。地域でいうと神奈川、東京、埼玉、千葉、北海道、近畿、福岡、熊本と都道府県ごとに連合組織を作りWNJの1号会員としてワーカーズ・コレクティブ運動を展開しています。

私とワーカーズ・コレクティブとの出会いは20年前、千葉県野田市で市民運動を共に活動していた仲間とリサイクルショップを立ち上げるときに、仲間の一人がワーカーズ・コレクティブを調査し、事業形態

としてこの形式を皆で選んだことです。ワーカーズ・コレクティブを立ち上げるのに1年あまり準備し、「ワーカーズ・コレクティブ 紙ふうせん」を設立して18年目になります。

1995年創立総会の議案書の定款では、「設立の目的」に「本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員自身が協同して事業を行い、組合員の文化的、経済的地位の向上を図り、住民自治の発展を期することを目的とする」とあります。同じ目的を持った仲間6人で立ち上げた「紙ふうせん」は設立10年目に新規事業「食」を展開するために2号店を開店することとなり、更に組合員を募り、地域のさまざまな応援団を巻き込んで開始しました。事業経営は必ずしも安定はしていませんが、地域になくてはならない場所として認知され、働く場所としても展開しています。

障がいがあったり、介護や子育てで時間を制約されたりと、社会では働きづらいメンバーも組合員となり、サポーター(有償ボランティア)と助け合い、認め合い、働

いています。孫が誕生したメンバーが多くなる一方で、子育て中の若いメンバーもいて、教科書にない子育て教育や、料理教室では教えてもらえない実践をしてきたからこそその調理ノウハウ・貴重なレシピ、人生教育を先輩ワーカーズメンバーから伝授され、若いメンバーの自信に繋がる体験になっています。

しんどいことも疲れることもあります。誰かに雇われ、言われながらではなく、自分たちで考えて決め、協同で働く、そして経営を皆でしていく、一人三役をこなしています。責任を持って働き、やりがいや達成感を感じる仕事だからこそ楽しさもプラスされ、元気に働き続けることが出来ているのだと思います。メンバーどうしや事業所として、更には地域に必要なされているという自覚もあります。

近年、不況の時代に労使関係のない市民事業などの働き方が増えています。その中で「協同労働」の働き方に合った法人格は未だ整っていません。WNJも、私たちの働き方にあった法人格を求める法制化運動を20年以上続けています。「ワーカーズ協同組合法」(仮称)の成立を待ちながら、NPO法人(35%)や企業組合(15%)などの法人格を取得していますが、約半数のワーカーズ・コレクティブは、法人格を取得していないのが現状です。

また、WNJでは被災地における仕事づくりを支援するために「被災地起業支援チーム」をたちあげました。チームのメンバーで岩手・宮城・福島の被災地に行き、仕事

おこし・起業のためのヒヤリングをおこない、ワーカーズ講座などを企画しています。地域の人々が力や知恵を持ち寄り、地域や生活に必要な事業を皆で起こし、得た収入は皆で分配する。そういう働き方は地域の再生を伴いながら、やりがい・生きがい・生きる気力を大きく持つことが出来ると思います。被災地では、復興に向け元気に活動をされている方がいらっしゃる一方で、将来に絶望されている様子が伺える方もいらして、その気持ちに大きな差があることを感じました。被災された方たちの気持ちを尊重しながら、こまめにワーカーズ・コレクティブの働き方を説明し、起業のお手伝いをしていきたいと思っています。

1995年にWNJで作成した「ワーカーズ・コレクティブの価値と原則」において、価値は「ワーカーズ・コレクティブは相互扶助の精神で自立、相互責任、民主主義、平等、公平という価値に基礎をおきます。またそのあらゆる活動において、正直、公開、社会的責任ならびに他社への配慮を大切にします」とあります。地域のさまざまな社会的に弱い人や若者・高齢者も集い、助け合い、昔近所にあったように作ったものや持っているものをシェアし合う、まさしく協同組合の地域事業を増やしていきたいと思っています。その為にも「ワーカーズ協同組合法(協同労働の協同組合法)」の法制化が急がれます。

「協同労働の協同組合」法制化をめざす市民会議が県単位で設立され、千葉でも2008年3月に「協同労働の協同組合ネット

ワークちば」がワーカーズコープちばとワーカーズ・コレクティブ千葉県連合会が共同代表を担い、設立しました。法制化の必要性をアピールするシンポジウムを毎年各地域で開催し、千葉県内ではワーカーズコープ、ワーカーズ・コレクティブが確実に増えています。

法制化は、「働く人の協同組合」の地域事業を増やし、協同組合という組織の認知度や評価を上げていくことに繋がります。2012年は国連が定めた「国際協同組合年」です。協同組合同士の連携や協力のもと、益々協同組合が発展することを願うばかりです。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合(ワーカーズコープ)への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。